

高商連ニュース

高知県商工団体連合会 NO.1206(58-13)

〒780-8035 高知市河ノ瀬町33

TEL088-832-4838 FAX088-832-3126

Eメール ksyoren@citrus.ocn.ne.jp

ホームページ <http://ksyoren.web.fc2.com/>

このニュースはホームページでもご覧になれます

2026年秋の運動 物価高騰影響調査、インボイス 青色特別控除改悪など学習交流し仲間増やしも



秋の運動がスタートしました。全商連の「物価高騰影響調査」(アンケート)を入口に、班会や学習会、訪問対話で営業とくらしの情報交換を行いました。影響調査は会員の3割、5割など、たくさん集めて自治体に業者の実態・要求を届けましょう。署名は、消費税廃止各界連の新署名「消費税に頼らず社会保障財源を捻出し、一律5%減税とインボイス廃止を求める請願」署名に1会員5署名を目標に取り組みます。また、瀬屋裁判新署名、憲法9条改悪に反対する署名、核兵器禁止条約の批准を求める署名などにも取り組みましょう。仲間増やしでは、対象業者比10%読者回復を中心に取り組みます。10月から縮小されるインボイス特例や、青色申告特別控除の改悪についても今から、学習・意見交流しておきましょう。自主記帳・自主計算など、申告に向けた準備も毎月行っていきましょう。様々な、取り組みを、班会や小集会、記帳教室・記帳カフェなど集まって話し合いながら進めましょう。

熊本地震 支援募金に ご協力を!

支援募金は各民商に届ける、
又は下記口座に振込下さい。

四国銀行上町支店
普通 5101078
高商連災害対策本部

須崎民商 記帳カフェ

相続、終活、詐欺電話の 話などで盛り上がり

8月19日(水)・須崎市多ノ郷公民館にて記帳カフェが開催されました。

参加者の中に、相続した土地を町に寄付したい、との相談がありました。「近年、市町村は土地を引き取らなくなっている。が、まずは町役場に問い合わせみてはどうか」と電話番号を調べました。その後、相続の話から遺品整理の話へ。コレ



(写真は別会場のもの)

クターだったため数々の骨董品があり、手放したいが、引き取ってくれる古物商はいないかとのこと。「軽トラに積んで骨董屋に持っていこうか」「〇さんと一緒に行けば力になってもらえそう」など骨董屋を探たり、「なんでも鑑定団に応募してみる?」との声も。

また、「私の父もコレクター。収集がすごい」と写真を見せてくれたりと話は盛り上がり。

詐欺電話に危うく引っかかるころだった話やラジオ体操・100歳体操、ヘアカットの話など、話はたくさん広がり世代を超えて情報交流ができたようです。

もちろん、お茶やお菓子を食べながらの賑やかな記帳カフェとなりました。

皆さんもぜひ参加してくださいね。

原水爆禁止世界大会に参加して

=青年参加者報告集(2026年)より=

Y・M(高知市 高校3年生)



広島へ行くのは、今年で3度目となりました。今年も、性別や年齢、国や立場の違う様々な人の声を直接聞くことが出来て、とても充実した時間になりました。

全国高校生平和集会では「改憲をめぐる問題」の分科会に参加しました。グループに分かれて、自衛隊、集団的自衛権、9条と日本がこれからとるべき行動などについて話し合いました。私は改憲反対派として発言していましたが、私以外のメンバーは全員、改憲賛成寄りの立場だったので、リアルな意見を直接聞くことができました。

話し合いの中でよく出てきた言葉として、「アメリカからの自立」や「対等」というものがあります。その手段として、武力を持ったり、いっそ自衛隊を日本軍にしたらいんじゃないか、と言うのです。その一方で、核廃絶への思いや集団的自衛権は違憲だという意見も同時に出ていました。これらのことから私は、根幹では「安心や安定が欲しい」「戦争はしたくな

い」という思いは共通しているのではないかと考えました。「9条を守り、外交で平和を作るべき」という私とは、アプローチの仕方が違うだけではないのかと。容認することはできない反対意見だとしても、土台に共通する願いがあるのかも思えたのは良かったです。

この分科会で特に印象的だったのは、メンバーの1人が、最終的に「9条は荊の道だが、武力に頼った対等というのは簡単。その楽な道へ戻るのはいかがなものか」と発言したこと。初めは、どちらかと言えば改憲賛成寄りだと言っていた人の考えが、話し合い、意見を交換する最中に、変わっていった。その事実には、対話することの意義が少しだけ見え隠れするのではないのでしょうか。

開会総会、閉会総会、平和資料館の見学などを通じて思ったのは「人のための戦争などは存在しない」ということです。開会総会での韓国の方の発言を思い出しながら、いつだって戦争は国や権力のために起こって、被害を受けるのは市民なのだと噛み締めていました。

今世界には、平和が当たり前ではない場所が確かにあります。生きて目が覚めるとも限らない人々が存在します。閉会総会で、日本女医会会長の前田佳子さんはこう言いました。

「平和は最大の公衆衛生」「戦争は最大の健康被害」だと。

人間が健やかに生きるため必要なのは、平和です。争いの中で得られる束の間の安寧は、ただ虚しいだけで、長続きなど到底し得ないものです。そう、改めて胸に刻んだ3日間でした。